

土壌診断に基づくリン酸・カリの施肥量の目安（水稲）

平成20年11月12日

農林産物生産コスト削減対策PT

この資料は平成20年7月に本PTから情報提供した「水稲作における肥料費削減に関連する当面の技術対策の考え方」の中で推奨している土壌診断に基づく施肥を、現場で実施するための具体的な目安を示したものである。

1 リン酸

土壌診断に基づくリン酸施肥量の目安(水稲)

土壌の可給態リン酸 mgP ₂ O ₅ /100g乾土	リン酸施肥量の目安 kg/10a	肥料・資材選択の目安
<10	10~12	化成肥料+土壌改良材
10~30	5~7	化成肥料(または化成肥料+ 土壌改良材)
30<	0	—

- 注
- ・土壌改良材は熔リン、重焼リン等の土づくり肥料。
 - ・堆肥等の有機物を施用するほ場では、含まれるリン酸成分を考慮して、肥料・資材施用量を削減する。
 - ・可給態リン酸が10mg/100g乾土未満のほ場では、土づくりのために土壌改良材を併用するのが望ましい。
 - ・土壌診断は3~5年に1回程度行う。

2 加里

土壌診断に基づく加里施肥量の目安(水稲、稲わら還元ほ場*)

土壌の種類	土壌中加里(K ₂ O)含量の下限値 mg/100g乾土	加里施用の目安 kg/10a	対応する主な土壌統群
砂質~壤質	11	下限値未満 6~8kg	・中粗粒灰色低地土(13B,13E) ・中粗粒グライ土(14E) ・礫質灰色低地土(13C,13F)の一部
粘質	16	下限値以上 3~5kg	・細粒粒灰色低地土(13A,13D) ・細粒粒グライ土(14A) ・礫質灰色低地土(13C,13F)の一部 ・黒泥土(15)
黒ボク土	25		・厚層腐植質多湿黒ボク土(04B) ・表層腐植質多湿黒ボク土(04D)

- 注
- ・*稲わら全量還元ほ場での目安。稲わらを持ち出すほ場では、ほ場からの加里持ち出し量に相当する10~12kg/10a施用する。
 - ・下限値は各土壌の平均的なCECを基に、加里飽和度が2%となる値に設定した。
 - ・堆肥等の有機物を施用するほ場では、含まれる加里成分を考慮して、加里肥料の施用量を削減する。
 - ・土壌診断は3年に1回程度行う。

(参考)土性の簡易判定

土質	土性	触感* ¹	塑性* ²
砂質~壤質	S~L	砂が半分より多い	鉛筆程度より細くならない
粘質	CL~HC	大部分粘土で一部砂を感じる ~ほとんど砂を感じない	マッチ棒程度くらいまで細くなる

*1: 土が乾いている場合は少量の水で湿らして、親指と人差し指でこするように判定する。

*2: 土が泥状にならない程度に水を加え、粘土細工の感覚で細く伸ばして判定する。